

1 研究主題 **意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成**
 ～書くことにつながる音声活動の工夫を通して～

2 研究の経過と概要

(1) 研究主題の設定理由

本研究会では、毎年、研究会で学んだことを授業で生かせるように、部会員による具体的な実践報告およびその検討を主とした研究を行っている。

本年度は、研究主題を「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～書くことにつながる音声活動の工夫を通して～」とし、小学校と中学校の先生方が同じテーマで研究できるようにした。

本地区の児童を見てみると、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」を含めた4技能の学習活動を行っている学校と、これから学習を進める学校もあり、地域や学校間で差がある。これから、「読むこと」「書くこと」の学習を始める学校では、不安を感じている教員もいる。

小学校での外国語活動のおかげで、中学校では、インタビュー活動やペアワークなどの活動に積極的に取り組む意欲的な姿が見受けられる。しかし、書くことに苦手意識を持っている中学生は多く、どの学年にも課題があるように感じる。小学校でも、文字指導に対する不安は教師にもあるようだ。

そこで今年度、小学校と中学校でそれぞれに合った手立てで音声活動から文字指導につなげられるような方法を探ることを目指したい。中学校では、書くことへのハードルを低くできるように、小学校では書くことへの期待を高められるように音声活動を工夫したい。そして、小中連携をより一層深め、より意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成を目指していきたい。英語学習において、小学校と中学校の連携を軸に、児童・生徒が「楽しい」と感じ、「わかる」と思う授業を創造することで、学習者がより意欲的に英語学習にとりくむだろうと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の経過

月 日	内容
5月 9日	組織決定・今年度の研究の方向性・統一授業研について
5月23日	研究の方向性（サブテーマを含む）について・授業者決定
6月13日	事例研究①（小中分科会） 夏季学習会の内容の決定
8月 6日	夏季学習会・統一授業研①指導案検討
8月29日	統一授業研①
9月19日	事例研究②（小中分科会）秋季教研に向けて
11月28日	事例研究③（小中分科会）秋季教研還流報告
1月 9日	統一授業研②指導案検討
2月 6日	統一授業研
2月13日	今年度の研究の成果と課題・来年度の研究の方向性について

(3) 研究内容

- ・研究テーマにせまるための指導案作成と授業実践。
- ・書くことにつながる音声活動の検討と実践。
- ・小中連携を意識した活動の展開を検討する。

(4) 研究組織および部員（2018年度）

- ・助言者 廣瀬 芳樹（笛川中 校長）
- ・部長 瀧本美由紀（勝沼中） ・副部長 平井成二（山梨南中），飯室林（日下部小）
- ・部員 藤木真里佳（日下部小），小池美樹（笛川小），古屋浩紀，大村隆（山梨南中）
 秋山悦子，利根川紫野，廣瀬剛（山梨北中），井口飛鳥，丸山正史（笛川中）
 三枝英太郎（塩山南小），小宮山公仁，渡邊皓，ポーター・ローレン（塩山北小）
 木下里江子（奥野田小），三枝朋佳，水上かおり，益田宗士，廣瀬美樹（塩山中）
 河野美春（塩山北中），堀内翔子，藤紀子，古屋友香（松里中） 柏原一仁（大和中）

第5学年 外国語活動学習指導案

指導者 小宮山 公仁
ALT Lauren Porter

1 単元名 「Who is your hero?」あこがれの人 (We Can!1—Unit9)

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、5年生の外国語活動の総仕上げとして自分の尊敬する人を紹介するスピーチ活動を行う。1学期の外国語活動では自己紹介を行ったり、自分の好きなことや欲しいものを他者に伝えたりするという一人称による表現を学んできた。さらに、新教材【We Can!1】のUnit5において、三人称を学んだことにより、第三者について友達に伝えることができるようになった。1年間の学びを通して三人称を使って他者についても話すことができることに成長を感じることができる単元である。また、既習表現である“can ~”「~ができる」に加え、ここでは“be good at ~ing”「~が得意である」の表現を取り扱う。教師と児童とのInteractionを通じたIntroductionや様々な活動を通して、この二つの表現の意味や使い方の違いに気を付けて表現できるようになることが期待される。三人称による活動を積み重ねることで、自分と相手以外のこの場にはいない第三者について、できることや得意なことを友達に伝えたり、友達の“My Hero”について知ったりする機会となるとともに、最終的に掲示物を作成することでクラスの仲間以外の第三者に対しても“My Hero”を伝えられるようになる。

また、最後の発表の際のよりどころとなるよう、スピーチ原稿として自分が伝えたい内容を表す語句や表現を書き写す活動を毎時間設定している。児童は、音声で十分に慣れ親しんだ表現を書き写して読み、一文ずつ積み重ねることで、ゴールに向かいスモールステップの形で授業に参加することができる。第4時には、再度ルーブリック評価を確認してからリハーサルを行うことで、視点をもって練習と本番に臨める。こうした活動が6年生での「書くこと」「読むこと」の学習につながっていく。

(2) 指導観

本単元の目標を達成するため、単元末の活動として“My Hero スピーチ大会”を設定し、指導計画をゴールから逆算してデザインしている(バックワードデザイン)。新しい単語や表現に慣れ親しませるために、インプットからアウトプットへ段階を追って展開することで、必要な力と達成感を積み上げ、学習に対する意欲が高まることを期待する。また、限られた時数の中で言語材料を使えるようになるため、児童にとって意味のある場面で繰り返し使わせることが大切だと考える。

「見通し」として、本単元の導入時には、IntroductionとしてALTもしくはJTEの“My Hero”について紹介したり、Let's Watch and Think1を活用したりして、本単元のゴールを見せることができ、児童にとってゴールに向かって学習を進める意欲につながるはずである。また、毎時間のはじめには本時のめあてと流れを児童に伝える。このことも児童が安心して主体的に授業に参加できる要素となるであろう。そして「振り返り」としては、振り返りカードを活用し、毎時間のめあてに対して児童がどれだけ取り組めたかを自己評価できるようにし、気付きや新しく学んだことなど自分の現状を把握するとともに、友達の良い点にも気付き、次時の意欲へと繋げていきたい。

また、Introductionやデモンストレーションなど、できる限り英語での指導を行いたいため、“MERRIER Approach”を心がけるようにしたい。

(3) 児童観

男子15名、女子6名、計21名の学級である。明るく元気で活発に活動できる児童が多い。男女の仲が良く、休み時間は校庭でサッカーや鬼ごっこをして遊んだり、教室内で友達と話したりしている姿がよく見られる。また、係が提案したレクには、全員が参加し笑顔で活動している。学習面においても意欲的な面が見られる。特に学級全体で活動する学習や体験学習は、楽しみながら学習することができる。しかし、意欲的に学習できる反面、理解の定着が難しいと感じられる。授業時間内で正答を挙げることに時間を要したり、既習内容の確認をする際には誤答を書いたりすることが多い。担

任は、授業の導入において前時までの学習を想起する場面を設け、安心して本時の学習に入っていけるような展開を心がけている。英語の授業においては、体験的な学習を中心に学級全体での活動やグループ活動を多く設けることが有効であると考える。

英語アンケートの結果から、英語の授業を楽しいと全児童が感じており、授業の内容も70%以上理解している児童がほとんどである。さらに、英語を「聞くこと」「話すこと」が好きだと回答した児童がほとんどである。これまでの授業が児童にとって学習意欲を高めるような指導であったと推測される。また、「わからない英語があっても続けて聞こうとする。」児童が多いという結果は、これまでの授業において、英語による Introduction に対しても児童が内容を推測しながら聞けるような内容理解の補助となる情報を事前に与え、自信につながるような工夫をしてきたことが要因であると考えられる。そして、「英語の勉強は中学校で役に立つ」と感じていたり、「将来必要である」と考えていたりする児童が多いことがわかった。英語の学習が「やらされている」のではなく「必要だからやっている」「英語でコミュニケーションできるようになりたいから学ぶ」という意識になるよう、肯定的な評価を多く行うようにここがけてきたことがこの結果につながっていると考える。ならびに、「日本と外国の同じところや違うところに気付いたことがある。」「友達について新しい発見があったことがある。」と全児童が感じている結果より、これまでの英語の授業を通して文化や言語を体験的に学ぶ機会や日本語ではなかなか質問しないようなことでも英語のコミュニケーションを通して相互理解を深めるきっかけになるような活動を仕組んできたことが有効であったと推測される。

一方で、英語の授業が苦手だと感じていたり、英語をあまり好きではないと感じていたり、英語を話すことに恥ずかしさや緊張を感じたりしている児童もいることから、児童に自信をもたせるようなアプローチが必要だと考える。英語を話しやすい授業の雰囲気作りや児童を勇気づける言葉がけを意識して行うことが効果的であると考え。また、文字指導に関するアンケートでは、英語の文字を「読むこと」「書くこと」に対する興味が高いことから、この意欲を活用しながらも維持できるような文字指導を行う必要があると考える。

【児童アンケート】

①英語の授業は楽しいですか。							
とても楽しい	19	まあ楽しい	2	あまり楽しくない	0	まったく楽しくない	0
②英語の授業は得意ですか。							
とても得意	5	やや得意	14	やや苦手	1	とても苦手	1
③英語の授業の内容をどのくらい理解していますか。							
ほとんど	6	70%くらい	14	半分くらい	1	ほとんどわからない	0
④英語を聞くことは好きですか。							
とても好き	13	まあ好き	9	あまり好きではない	0	まったく好きではない	0
⑤英語を話すことは好きですか。							
とても好き	8	まあ好き	12	あまり好きではない	1	まったく好きではない	0
⑥英語の文字を読んだり、書いたりしてみたいですか。							
とてもそう	10	まあそう	10	あまりそうではない	1	まったくそうではない	0
⑦わからない英語があっても続けて聞こうとする。							
とてもそう	13	まあそう	8	あまりそうではない	0	まったくそうではない	0
⑧英語を話すのは恥ずかしかったり、緊張したりする。							
とてもそう	2	まあそう	6	あまりそうではない	7	まったくそうではない	6
⑨日本と外国の同じところや違うところに気づいたことがある。							
あった	21	なかった	0				
⑩友達について新しい発見があったことがある。							
あった	18	なかった	3				
⑪小学校での英語の勉強は中学校で役に立つと思う。							
とてもあてはまる	19	まああてはまる	2	あまりあてはまらない	0	まったくあてはまらない	0
⑫将来どのくらいの英語力を身につけたいですか。							
英語で仕事ができる	6	外国で暮らせる	4	海外旅行で困らない	11	必要だと思わない	0

3 研究との関わり

今年度の外国語教育研究部会のテーマは「意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成～書くことにつながる音声活動の工夫を通して～」である。新学習指導要領の2020年度本実施に向け、甲州市では移行期間として教育課程を進めている。大きな変化として、高学年が教科となり、これまでの外国語活動で指導していた「話すこと」「聞くこと」の音声指導に加え、「書くこと」「読むこと」の文字指導が入ってきた。以上のことを受けて、本単元の流れとして、書くことへの期待感を高められるような音声活動を工夫する必要がある。

単元全体の流れとして、音声によるインプットから始まり、音声によるアウトプットを単元末の活動として設定する。その間、スモールステップの形で音声指導や音声活動を仕組み、児童にとって負担の少ない展開になるよう試みる。毎時間の流れとして、十分な音声活動の場面を設けることで、単語や表現への慣れ親しみを図りたい。くわえて、授業の終末において書くことの時間を設ける。授業ごとに少しずつ行うことで、スピーチ活動という具体的な目標に向けて原稿づくりをスモールステップで積み上げることができるよう工夫した。また、単元末の活動として音声による発表活動を仕組みとともに、相手意識や目的意識をもって活動をすすめる。そのことで、より多くの人へ伝えたいという欲求につながり、その手段として書くことの活動の必要性や意欲につながることを期待したい。

4 単元の指導目標

○自分があこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて紹介し合おうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

○第三者が得意なことを表す表現に慣れ親しむ。また、文字を読んだり書いたりすることに慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

○My Hero を紹介する表現に気付く。

【言語や文化に関する気付き】

5 使用する語彙や表現

○表現（児童の発話）

- ・ Who is your hero? ・ My hero is my (sister). ・ She/He is (名前).
- ・ She/He can (swim). ・ She/He is good at (swimming butterfly).
- ・ She/He is (kind). ・ She/He is my hero.

○語彙（児童が使う語彙）

- ・ hero (mother, father, sister, brother, grandmother, grandfather, teacher, pet)
- ・ 状態, 気持ち (friendly, fantastic, great, active, kind, gentle, nice, cool)

6 単元の評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	【外国語への慣れ親しみ】	【言語や文化に関する気付き】
自分があこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて紹介し合おうとしている。	第三者が得意なことを表す表現に慣れ親しもうとしている。また、文字を読んだり書いたりすることに慣れ親しもうとしている。	My Hero を紹介する表現に気付いている。

7 指導計画と評価計画

時	目 標・活 動	評 価			
		コ	慣	気	
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ My Hero を紹介する表現に気付く。 ①Let's Watch and Think 1 ②Introduction ③ビンゴゲーム ④Let's Read and Write 1・4 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ My Hero を紹介する表現に気付いている。 (行動観察・ワークシート・振り返りカード分析)

2	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者が得意なことを表す表現や文字を読んだり書いたりすることに慣れ親しむ。 ①Warm-up ②Study (can, good at ~ing) ③Chant ④Let's Listen 1 ⑤ジェスチャーゲーム ⑥Let's Read and Write 2・4 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・第三者が得意なことを表す表現に慣れ親しんでいる。 (行動観察・ワークシート・振り返りカード点検)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・あこがれたり尊敬したりする人について紹介する表現に慣れ親しむ。 ①Let's Chant ②Study ③どんジャンゲーム (状態・気持ち) ④Let's Listen 2 ⑤Let's Read and Write 3・4 ⑥Let's Listen 3 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・あこがれたり尊敬したりする人について紹介する表現に慣れ親しんでいる。 (行動観察・ワークシート・振り返りカード点検)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分があこがれたり尊敬する人について自分の考えや気持ちなどを紹介する準備をする。 ①Let's Chant ②Review (状態・気持ち) ③Let's Listen 5 ④Activity 2 (スピーチ準備) 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・自分があこがれたり尊敬する人について自分の考えや気持ちなどを紹介する準備をしている。 (行動観察・ワークシート・振り返りカード点検)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自分があこがれたり尊敬する人について自分の考えや気持ちなどを紹介する。文字を書くことに慣れ親しむ。 ①Let's Chant ②Practice ③My Hero スピーチ大会 ④Let's Read and Write (掲示用) 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自分があこがれたり尊敬する人について自分の考えや気持ちなどを紹介しようとしている。 (行動観察・振り返りカード点検) ・文字を読んだり書いたりすることに慣れ親しんでいる。 (行動観察・ワークシート・振り返りカード点検)

8 本時の学習 (1 / 5時)

(1) 日時 平成31年2月6日 (水) 5校時 (14:00~14:45)







(2) 場所 甲州市立松里小学校 5年教室


(3) 目標 ・My Hero を紹介する表現に気付く。

【言語や文化に関する気付き】

(4) 展開

展開	児童の活動	指導者の活動 (◎評価)		準備物
		○指導者	☆ALT	
Greeting (5分)	1. あいさつをし、ALT や HRT と簡単な会話をする。 2. 本時のめあて、流れと5つのポイントを確認する。		Hello! How are you? How is the weather? What day is it today? Can you ~?	5つのポイントカード
Today's goal : My Hero スピーチ を聞いて考えよう!		①Eye contact ②Listen ③Clear voice ④Smile ⑤Gesture		

<p>Study (20分)</p>	<p>3. 【Let's Watch and Think 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 雑誌の表紙から連想した登場人物についてのヒーローについて話している映像資料を視聴し、その内容を推測する。 <p>1回目：聞いてみる。 2回目：メモを取りながら聞き、ペアとスピーチの内容を相談し、発表する。 3回目：確認しながら聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> My Hero を紹介する表現として、できることや得意なこと等の表現が活用できることに気づき、単元最後の活動への見通しをもつ。  <p>4. 【Introduction】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者の話を、反応を示したり、内容を考えたりしながら聞く。 単元最後の活動への見通しをもつ。 新出単語の発音練習。 	<p>○プレ活動として情報は与えず、場面や内容を推測しながら聞くことを指示する。</p> <p>○イン活動として、聞き取れたことや繰り返し出てきた表現などのメモをとることを伝え、2回目の視聴後、ペアで場面や内容について相談する時間を確保する。交流した内容を発表させるが、正誤は伝えず、他の児童へ投げかけ、考えさせる。</p> <p>○ポスト活動として、3回目の視聴を行い、スピーチの内容を確認する。</p> <p>○本時のめあての隠された部分を見せ確認する。</p>  <p>○単元のゴールの姿を児童につかませる。</p> <p>○ルーブリック評価を確認し、児童と共有する。</p> <p>○My Hero は身近な人に限ることを伝え、新出単語の発音練習に移る。</p>	<p>☆PC の操作を行う。 3回目は、途中で止めながら再生する。</p>  <p>◎【言語や文化に関する気付き】 My Hero を紹介する表現に気付いている。 (行動観察・ワークシート・振り返りカード分析)</p> <p>☆My Hero スピーチ (Show & Tell)</p> <p>☆カードを見せながら発音練習をする。</p>	<p>デジタル教材</p> <p>ALT のワークシート</p> <p>人物カード</p>
<p>Game (8分)</p>	<p>5. ビンゴゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の机の上に3×3の形に好きに並べる。指導者の言ったカードを繰り返しながら裏返し、1列裏返ったら“Bingo!”。 グループで行う。(順番にカードを引き、答える。) 	<p>○ビンゴゲームの方法をデモンストレーションで示す。</p> <p style="text-align: center;">My hero is my ().</p> <p>○机間指導しながら、支援や肯定的声かけを行う。</p> 	<p>☆ビンゴゲームの方法を説明する。</p> <p>☆机間指導しながら、発音指導を行う。</p> 	<p>人物カード</p>

Activity (7分)	6. 【Let's Read and Write 1・4】 ・単元末で紹介したい憧れの人を書き写し、発音練習をする。 ・プリント4にも書き写す。	○ワークシートにある例文を参考に、ワードリストから英単語を選んで文を完成させることを伝える。 ○机間指導する。	☆机間指導しながら文字指導を行う。 ☆書き終わった児童に発音させチェックし、4のプリントを手渡す。	Let's Read and Write 1・4 シート
Reflection & Finish (5分)	7. 振り返りカードを書く。 8. あいさつをする。	○カードを記入する際の視点を与える。		振り返りカード

9 本単元のルーブリック評価

	A	B	C
相手の顔を見て話している。	いる	時々見ている	いない
相手に伝わる声の大きさを伝えている。	抑揚も	いる	いない
文の量	7文以上	6文	6文未満
内容 ・「できること」「得意なこと」「状態・気持ち」		3つとも伝えている	いない

スピーチ例

My hero is my sister.
She is Hitomi. (誰)
She can play the flute well. (できること)
She is good at playing the piano. (得意なこと)
She is cool. (状態・気持ち)
She is my hero.



10 参考資料

～MERRIER Approach～

Model/Mime・・・言語外情報を使うこと（ジェスチャー，イラスト）

Example・・・具体例を挙げること（get up→I open my eyes, and say “Good morning.”）

Redundancy・・・別の視点で言い換えること（Stand up, please.→It's time to start.）

Repetition・・・重要なことは繰り返す（文を丸ごとではなく，単語や語句を繰り返す）

Interaction・・・児童に問いかけること（教師が一方的ではなく，児童とのやりとりで進める）

Expansion・・・児童の発言を正しく繰り返すこと（正しく直したり，別の表現に換える）

Reward・・・児童の発言や行動をほめること（ほめることで他の児童にも理解できる）

（小学校の外国語活動基本の「き」 酒井英樹，2014より）

Today's goal	My Hero スピーチを聞いて考えよう!		
①めあてを達成することができた。			
②意欲的に授業へ参加することができた。			
③英語の表現をたくさん聞いたり、言ったりできた。			
④気づいたことや友達の良い点を書きましょう。	ぼくは、マイヒーローは田中さんと考えていてあた、スピーチで大事な言葉を聞きとれましたね。		

Today's goal	My Hero スピーチを聞いて考えよう。		
①めあてを達成することができた。			
②意欲的に授業へ参加することができた。			
③英語の表現をたくさん聞いたり、言ったりできた。			
④気づいたことや友達の良い点を書きましょう。	My Hero スピーチの下じかんをやるのが楽しかった。 スピーチに、その人、名前、好きなこと、よくするなにか、かっこいいところがあった。 Wonderful! スピーチに必要な内容も聞いて考えられましたね。		

1.1 統一授業研の反省

(1) 研究テーマに関わって

- “Let's Watch and Think”から音声活動を積み重ね、十分に音に慣れ親しみインプットしたのちに、児童のみでの楽しく意味のあるゲームを通しアウトプットをしたということから、児童にとって大変、頭に残る活動の仕組み方だと感じた。また、ゲームを通して関心が高まった後に、各活動を仕組んだため、書くことへの意欲も高まったのではないかと感じる。さらに、自分が書きたいことを書くために児童にあった選択肢が設定されていたため、とても効果的な活動だったと思う。
- 本時のキーセンテンスがつながって、スピーチの原稿になるという授業の組み立てが、素晴らしいと思う。子ども達は、「作文をつくる」という意識をしなくても、しっかり原稿をつくることができ良かった。毎時間、音声で慣れ親しんだ表現を1時間ずつ書きためていくことで、子ども達の負担が少なく、最後のプレゼンテーションの原稿ができると感じた。
- 授業のゴールが明確にわかり、「聞く活動→文字に触れながら慣れる活動（ビンゴ）→自分のヒーローを書く活動」というスモールステップで学習していく授業のスタイルは、子ども達の学ぶ意欲を高めていると感じた。また段階を踏んでいることで、抵抗なく最後の書くことにつながった音声指導が行われていた。
- 本時の表現“My hero is my ~.”の文字を黒板に提示しなかった。授業者がまずは音声から学んでほしいという思いからであろう。音として表現に十分に慣れ親しんだ後に、文字を提示することで音と文字がつながると考える。文字を提示することで、正確さが増すという中学校の先生からの指摘もあったが、小学校のうちには自分の思いを伝えたいという意欲を尊重し、Fluencyを重視すべきだと思う。細かい点までフィードバックしていくと英語嫌いを増やしかねない。Accuracyを求めるのは中学校において指導していく点でいいのではないかな。

(2) 授業（展開、教材・教具など）に関わって

- バックワードデザインがしっかりできており、第1時にゴールを児童に見せたことで、児童の意欲につながることも目的意識を持たせることができ、とても良かった。言語習得理論という面からも、とてもよく組み立てられた授業であった。スムーズな流れや綿密な準備を感じた。
- 学習プリントの提示の仕方が本当に効果的だった。メモを取り、気づいたことを残しておくことで、次時の“be good at ~ing”の導入にも関係づけることができたり、何を話せばよいのか児童が思い返しやすくなったりして、良いこと尽くしだと感じた。また、児童の気づきから導入できることからその単元で使用する単語のインプットにも効果が出てくるのではないかなと思った。
- 小学校英語では教材教具はとても重要だと感じた。ビンゴに使ったカードなど、全員分作るのは大変

だと思うが、そのことによって子供たちはとても楽しく学んでいた。また、紙袋に1セットずつ選ぶカードを入れてグループに配布したことで、児童同士でビンゴを行えるように工夫がされていた。児童たち自身から主体的に活動できる環境をつくる効果的な教具だった。

- “Repeat after me.”とは言いづらかったが、ビンゴで子ども達が楽しみながら、自然に発音練習をしている工夫は、英語嫌いを作ることがない工夫だと感じた。そのビンゴを通して子どもが慣れ親しんだ表現をワークシートで、書くことを意識させず、書かせていてすごいと思った。
- 評価のポイントが絵で示されたラミネートのカード“Eye contact”“Listen”“Clear voice”“Smile”“Gesture”の5つの大切なポイントは、中学校でも有効活用できると感じた。“Today's menu”の提示も効果的であると感じた。それ以外にも、黒板にはる教材がしっかり用意されていた。目で見てもわかりやすく、楽しい雰囲気をつくることのできる生徒のやる気を高めるのに効果的だと感じた。

(3) 指導者の活動に関わって

- 授業前から児童たちにスキーマを与えられるような英語を聞かせたり、クイズを出したりしていた。そのことにより授業に入りやすい雰囲気がつくられていたとともに、“Let's Watch and Think”の聞き取りの際にも役に立ったと思う。
 - 小宮山先生も Lauren 先生も、二人の先生方がとても共感的で、明るく笑顔で安心して楽しく学べる授業の雰囲気を作り出していた。ビンゴゲームでも、“Bingo”になった際のハイタッチ等、児童の気持ちを盛り上げ、授業を活気づけ、より楽しく活発な方向へと導いていた。
 - 全ての児童の様子を的確につかんでいて、支援が必要な児童に、必ず小宮山先生や ALT がついて指導に当たっていたのが素晴らしかった。普段から細やかに児童の様子をつかんでいることがよくわかった。また、とても精力的に動き、子ども達に声をかけていて、子ども達の自信につながったと思う。
 - “Let's Watch and Think”の扱いがとても素晴らしかった。時間をとり、隣と交流させたり、ポイントを示して聞かせたり、途中で止めながら聞かせることで、全ての児童が興味を持って最後まであきらめずに聞き取ることができたと思う。映像教材を視聴後、教師の質問に対しての児童の発した答えに「そうだね、〇〇と言っていたよね～」と肯定するのではなく、「ふーん、〇〇って聞こえたんだね～」と正解も不正解も示さない反応をすることで、児童達は間違える恐怖とは離れたところから自由に発言ができていたように感じた。
- ▲今日の授業は日本語が多かったように感じた。もっと英語が多くても大丈夫だったのではないかな。
- 今回の目標は「気づくこと」ということなので、“Let's Watch and Think”の場面において、指導者が日本語による指示で展開していたが、それは適切であったと考える。そのことで児童は目的が明確になり、聞くことや考えることに集中できていた。その後は、指示や褒める場面でもほぼ英語で話していたが、児童が指示に従って動いており、普段からの積み重ねが見てとれた。

(4) 児童の様子に関わって

- 周りに大人がたくさんいても、子ども達が心から楽しんでいる様子がうかがえた。英語の授業が普段から好きなんだろうと伝わってきた。恥ずかしがらず、間違いを恐れず、発言をしたり、反応をしたりしている姿が非常に良かった。普段の授業から暖かい雰囲気で授業をされていて、子ども達も間違いを恐れず発言できる雰囲気を先生がつくられていることが伝わってきた。
- 児童から自然に“Hello!”“Thank you!”“Rock, paper, scissors!”等の英語が発せられていた。日頃のご指導が形になり、自分から英語でコミュニケーションをとろうとする姿勢が身についている。
- いきいきと楽しそうに学んでいる子ども達を見て、本来あるべき姿を見たように感じた。学習指導要領の完全実施にむけ、どこの地域でも進められている英語教育だが、小学校英語教育の本質は見失わないようにしたい。

(5) その他

- 児童と指導者との関係性の良さがいたるところで感じられた。担任でなかったり所属校でなかったりという点で苦勞や課題はあると思うが、英語専科教諭が指導することで、その先生が来たら「英語の時間だ！」と児童の脳が英語モードに切り替わると思う。また、小学校から中学校へのハードルが少し下がり（教科担任制の）、中一ギャップといわれる問題にも有効だと思う。

小学校 Name _____ Date _____

Who is your hero ?

☆聞き取れたことをメモしよう！

【児童 A】
先生 リコーダー 田中 タフ シー ラン
マイヒーロー キャン イズ アレイ グッド グレイト

【児童 B】
トナカ、女の人、リコーダー、先生、マラソン、歌

【児童 C】
・先生 ・女の人 ・リコーダーが ラッキー
・田中 ・私のヒーロー ・フルマラソンのランナー
・タフ ・哥スも ラターの がラッキー ・すばらしい

ルーブリック評価

話すこと (発表)	Who is your hero ?		
	A	B	C
相手の顔を見て話している。	いる	時々見ている	いない
相手に伝わる声の大きさを伝えている。	抑揚も	いる	いない
文の量	7文以上	6文	6文未満
内容 ・「できること」「得意なこと」「状態・気持ち」		3つとも 伝えている	いない

松里 小学校 Name _____ Date 3/6

Who is your hero ?

~Let's Read and Write①~

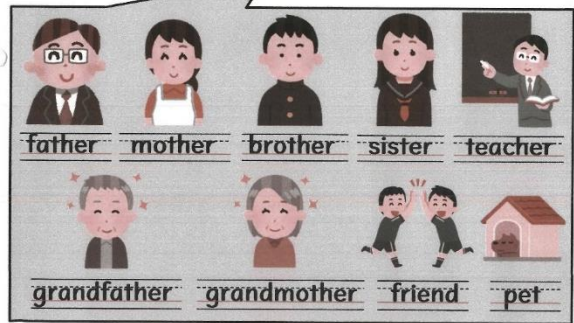
☆例を参考に、自分のヒーローを考えて、書き写そう！

(例) My hero is my sister.
She is Hitomi.

My hero is my mother.

She/He is Miwa.

(My hero の名前)



アルファベットを書く位置に気を付けよう！

松里 小学校 Name _____ Date 3/7

Who is your hero ?

~Let's Read and Write②~

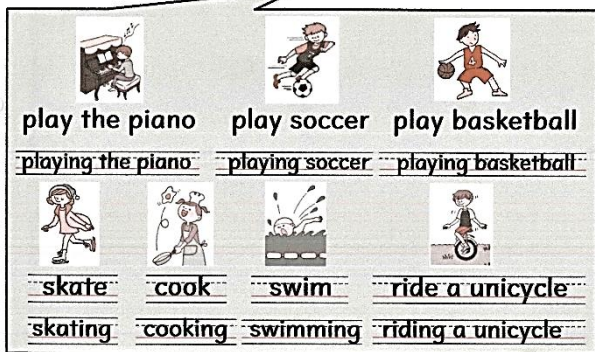
☆自分が紹介したいヒーローのできること・得意なことを選び、書き写そう！

(例) She can do track and field well.

She/He can sing well.

(例) She is good at making hamburger.

She/He is good at cooking.



単語の最後が少し変わったね。気を付けよう！

松里 小学校 Name _____ Date 3/14

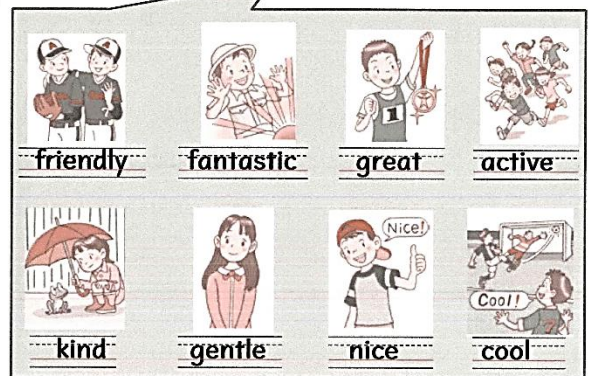
Who is your hero ?

~Let's Read and Write③~

☆自分が紹介したいヒーローはどんな人かを1つ選び、書き写そう！

(例) She is cool.

She/He is great.



あこがれているところは何か？

Who is your hero ?

~Let's Read and Write④~

☆あなたのヒーローを紹介しよう！

① My hero is my mother.

① She is Miwa.

② She can sing well.

② She is good at cooking.

③ She is great.

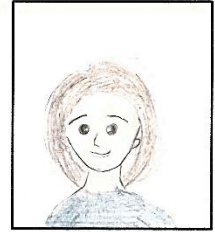
She is my hero.

My Hero スピーチの準備をしよう！練習もね！



This is my hero.

☆わたしのヒーローを紹介しよう！



My hero is my mother.

She is Miwa.

She can sing well.

She is good at cooking.

She is great.

She is my hero.

1.2 振り返り

(1) 英語アンケートより（事前と事後の比較より）

①英語の授業は楽しいですか。	とても楽しい	19→20
③英語の授業の内容をどのくらい理解していますか。	ほとんどわかっている	6→8
⑤英語を話すことは好きですか。	とても好き	8→13
⑩友達について新しい発見があったことがある。	ある	18→21
⑪小学校での英語の勉強は中学校で役に立つと思う。	とてもあてはまる	19→20

(2) ルーブリック評価より

「相手の顔を見て話している」については、練習の時点では児童はスピーチ原稿を見ずにできるように行っていたが、本番になり友達を前にした際、緊張や不安から原稿に目を落とす児童が多かった。「相手に伝わる声の大きさを伝えている」については、指導者のアドバイスやペアとの練習を重ねたこともあり、ほとんどの児童がA評価であり、C評価の児童はいなかった。「文の量」については、スピーチの時点では21名全員がA評価をクリアしていた。6文に加えて、できることや得意なこと、状態・気持ちの文を1文加える児童や“Hello!” “Thank you.”といった表現を話す児童が見られた。「内容」については、21名全員がB評価をクリアしていた。

スピーチ大会に向け、毎時間一文ずつ積み重ねる活動を設定したことで、発音や英文については目標をクリアすることができたが、人前で話すことに対する経験の少なさが課題であると感じた。普段の外国語活動においても、ペアやグループによる活動は多く、単元末の活動としては学級全体で活動を行ってきたが、スピーチという形は今回が初めてであった。今後、経験を積んでいけるよう、スピーチ活動の機会を増やしていきたい。